

高松赤十字病院 内分泌代謝内科

大山知代

高松赤十字病院は1907年（明治40年）6月1日に6番目の赤十字病院として開院しました。以後戦禍の中の一時期を除いて、現在の地から一度も移転することなく、地域の中核病院として歩んできました。現在は総病数507床の総合病院として、急性期医療を担っています。

内分泌代謝内科の常勤スタッフは3名で、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患などの内分泌疾患と、糖尿病を中心とした代謝性疾患を中心に診療を行っています。コロナ禍におけるデータではありますが、2021年度の外来総患者数は14,196名、入院総患者数は237人、平均入院日数は9.1日でした。また、当科は日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。

内分泌分野では、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患が多く、甲状腺専門外来を設置し診療を行っています。甲状腺疾患においては、県下でも診療患者数が多い医療機関の一つです。その他下垂体疾患や副腎疾患においても、地域の先生方から多くのご紹介をいただいています。内分泌診療は、臨床所見より内分泌疾患を疑うことから始まります。内分泌疾患を疑った場合には、適切に負荷試験等の精査を行い、速やかに診断、治療が出来るよう心がけています。外科的治療が必要な場合には、脳神経外科、胸部乳腺外科、泌尿器科、放射線科など、他科と連携しながら治療を行なっています。

代謝疾患の代表である糖尿病は、医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士によるチーム体制で診療を行なっています。外来には、常時糖尿病指導の担当看護師1名が従事し、患者さん個人の生活に沿って糖尿病療養指導を行なっています。外来でのGLP-1受容体注射製剤、インスリン製剤の導入にも積極的に取り組んでいます。また、1ヶ月に1回、週末3日間（金土日）で糖尿病教育入院を開催し、各スタッフが関わって、糖尿病に対する理解を深めていただける様に取り組んでいます。糖尿病診療で問題となる合併症に関しては、良好なコントロールを維持し、発症を防ぐだけでなく、腎臓内科、循環器内科、皮膚科など、他科とも連携をとり、早期診断、診療治療が出来るように心がけています

また、当院は急性期病院であり、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼなどの内分泌領域の救急診療や、他科で入院した患者の血糖管理にも積極的に取り組んでいます。各診療科間の垣根が低く、連携が取りやすい体制は当院の特徴でもあります。

当院での専門研修では、入院患者の主治医として、また外来担当医として内分泌代謝疾患の診療に携わっていただいています。前述したような、市中病院で経験できる内分泌代謝疾患症例を数多く経験していただけると思います。また、初期研修医の先生が一学年につき8人前後在籍しており、後進の指導にも力を注いでいただいています。ぜひ将来の内分泌代謝診療を担う若い先生方と一緒に、香川の内分泌代謝疾患の診療に貢献出来るよう

研鑽を積んでいければ幸いです。



現在研修中の山本先生



第 126 回日本内科学会四国地方会で初期研研修医奨励賞と指導医賞をいただきました。